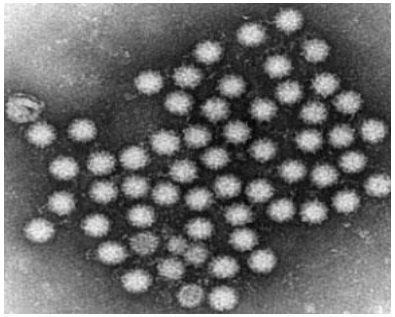
「見直してみよう！オムツ交換！」
～個人防護具の着脱、オムツ交換の実践編～

【開催日時】 12月6日（火） 14:00 ～ 15:30
【開催場所】 NOSAI福井 大会議室

ノロウイルスの特徴



①感染力が強い

⇒たった10個～100個のウイルス粒子で感染することがある！

②便や吐物に多量に含まれる

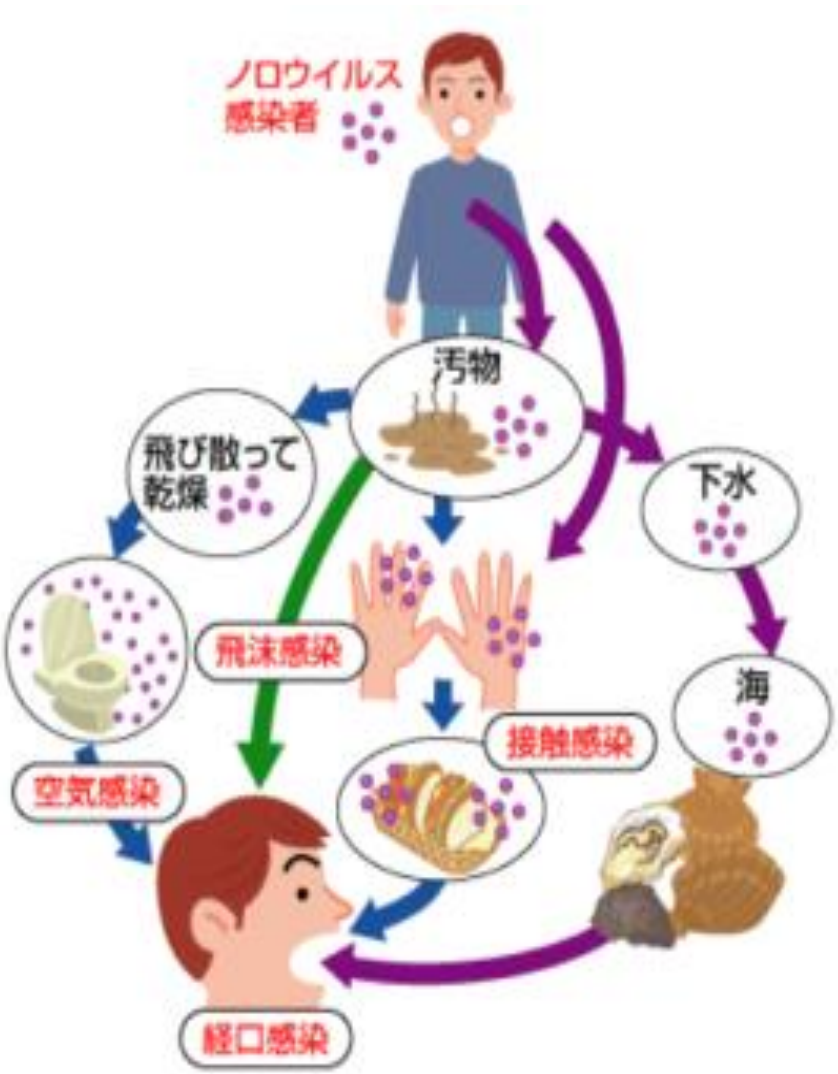
⇒便1g中に1億個以上、吐物1g中に100万個以上も存在する！
　ノロウイルスは4℃で60日、20℃で2～3週間生存可能

③症状が消失した後も排出されている

⇒ 症状消失後であっても10～30日間ウイルスの排出が続く

④アルコールが効きにくい

ノロウイルスの感染経路



接触感染とは
ノロウイルスで汚染された
手指・衣服・物品を触ることで感染

経口感染とは
ノロウイルスに汚染された物を食べることで
感染（食中毒）

空気感染・飛沫感染とは
床などに飛び散った吐物や下痢便が乾燥し、
舞い上がった粒子を吸い込むことで感染

ノロウイルスの予防

手指衛生（手洗い）

食べ物の加熱処理（中心温度85-90℃ 90秒以上）

日々の環境整備

ノロウイルスの予防

排泄物・吐物の正しい方法での処理

ノロウイルスに効果がある消毒方法

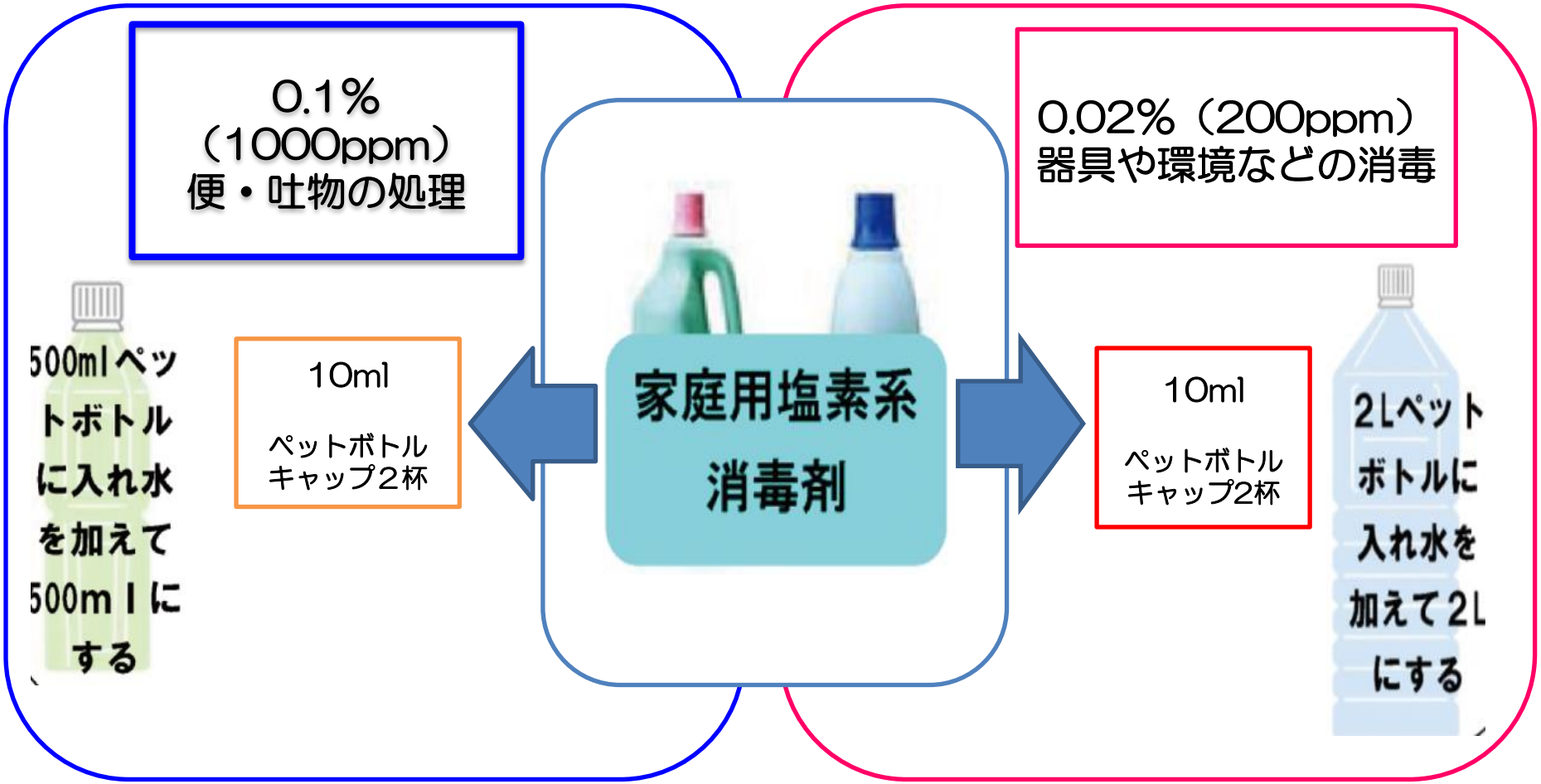
次亜塩素酸ナトリウム

加熱85℃　1分以上

家庭用酸素系
消毒剤

※　低：120℃

消毒液のつくり方



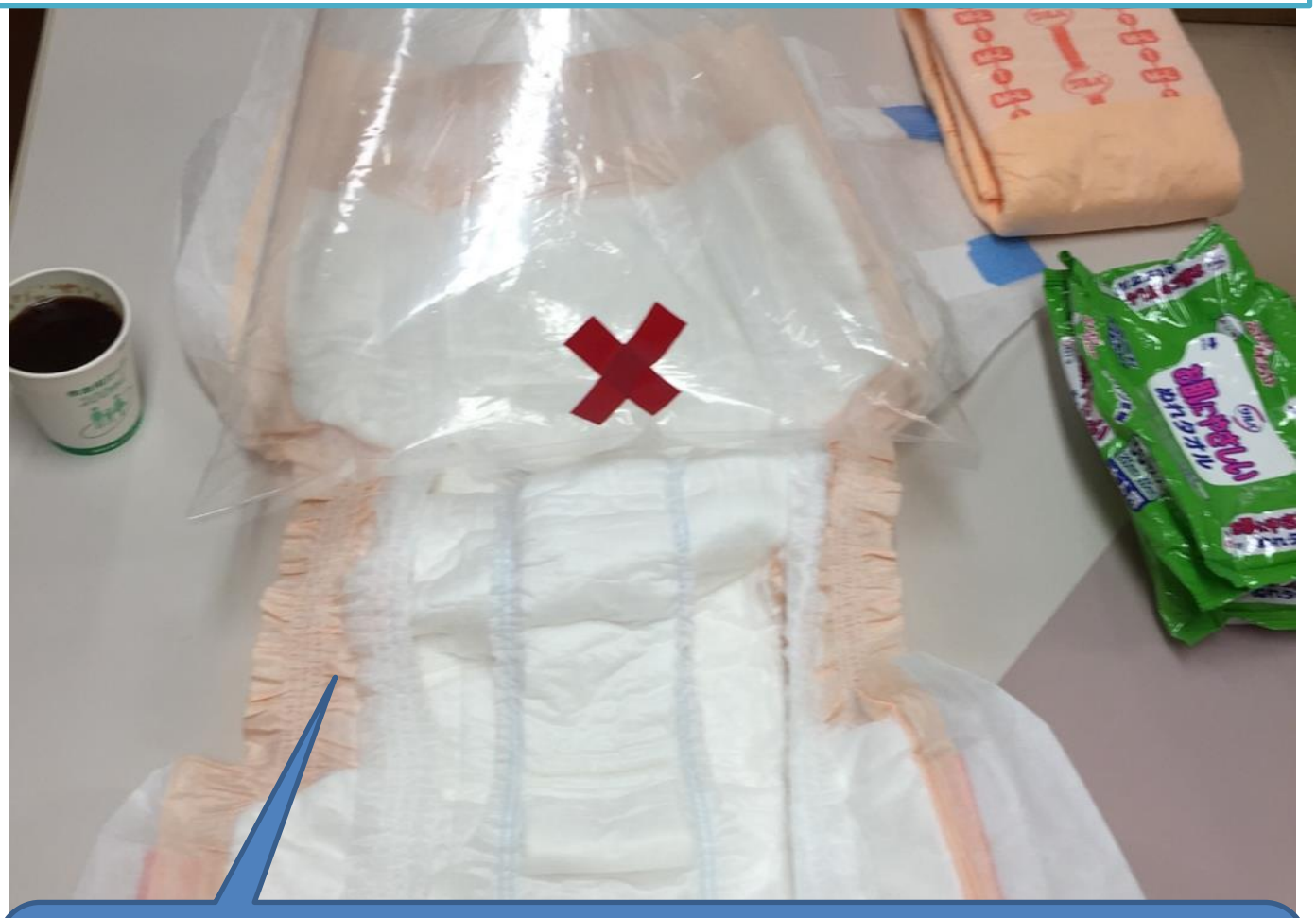
INFECTION CONTROL 22巻11号

ペットボトル活用時の注意点

＊内容物を表示する。
＊遮光する。
＊24時間ごとに更新する。

おしりふき
エプロン
ビニール袋
オムツ
模擬便
手袋

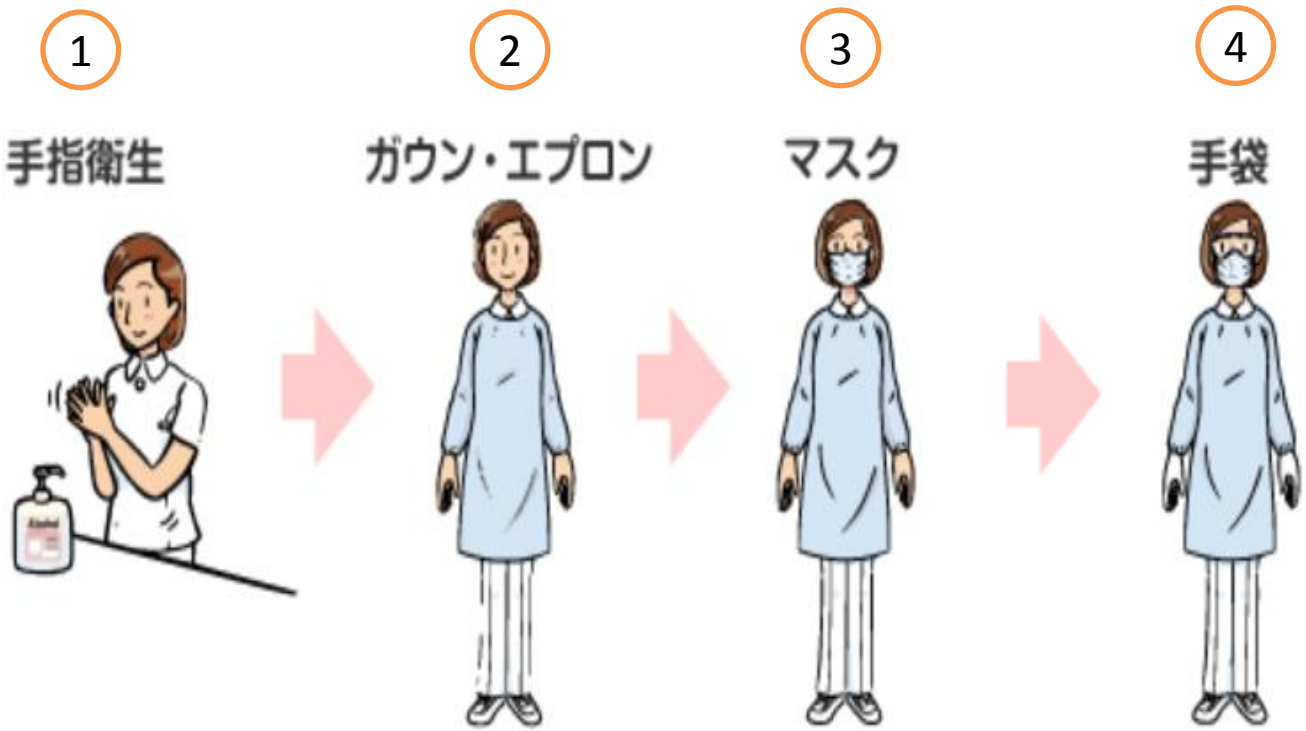
オムツの上にビニール袋を置く。



ビニール袋が滑るので、動かないように
一人の方が押さえていてください。

印のあたりに、模擬便をかける。

個人防護具を正しい順序で着用する

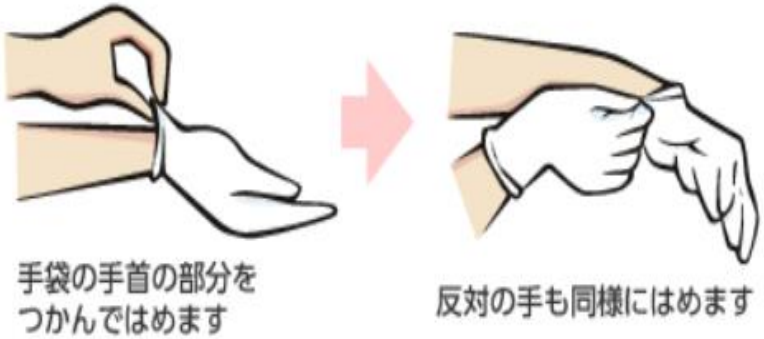


個人防護具の正しい着用方法

エプロン

マスク

手袋

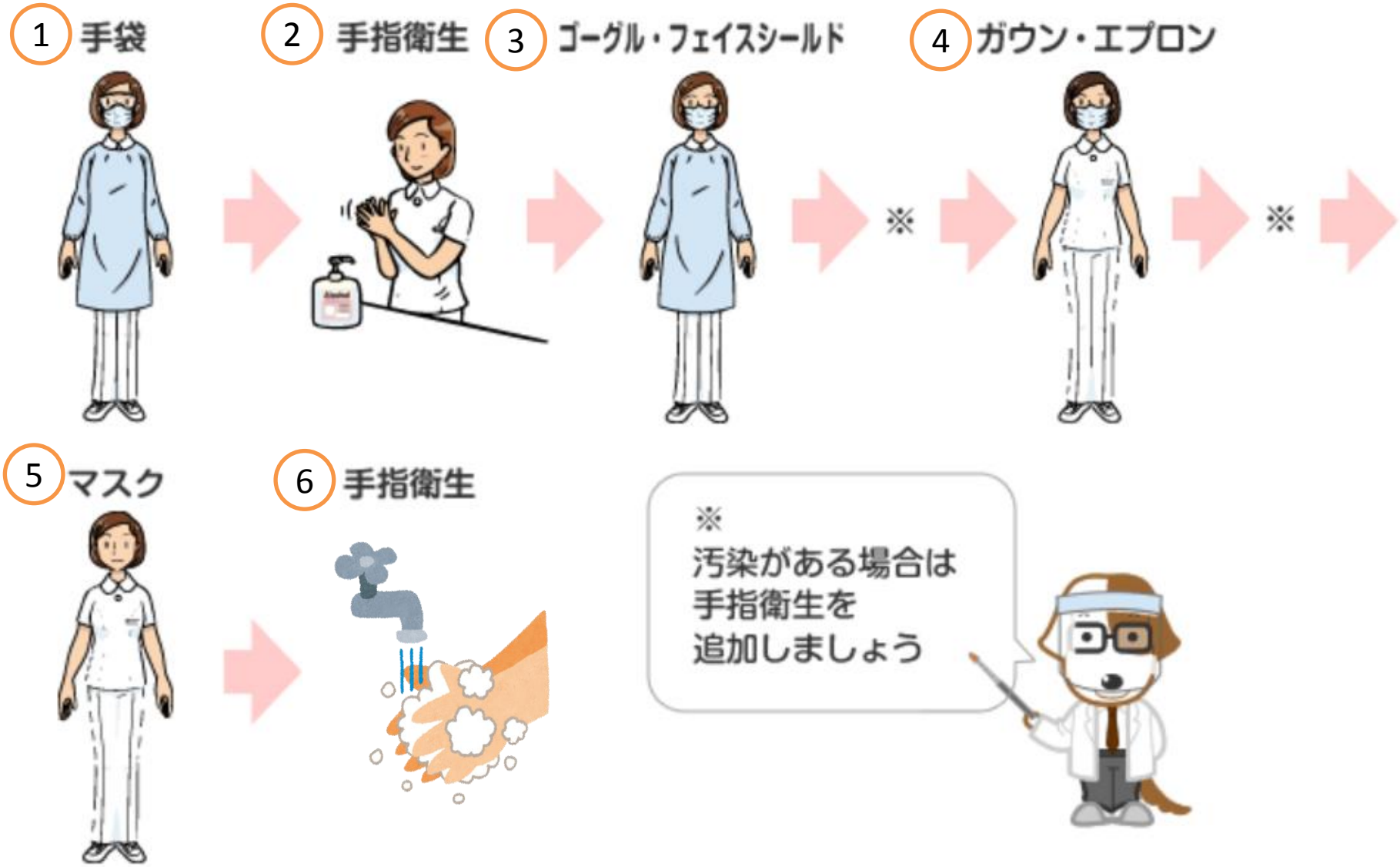


こんなマスクの付け方をしていませんか？

オムツ交換手順

準備
①
又は
手指衛生
②
物品準備
③
プラスチックエプロン
（マスク）
バリア
プリコーション
おむつ交換
④
複数患者に
同じ手袋を使用しない
（一患者一手袋）
未滅菌手袋の着用
⑤
ビニール袋
おむつで便を
包み込むようにする
除去後、ビニール袋に入れる
便の処理
⑥
又は
手袋を外し
手指衛生
⑦
未滅菌手袋の着用
⑧
飛散させない
陰部洗浄
陰部洗浄ボトル
は個人用又は
1患者毎に洗浄
消毒が必要
⑨
手袋・エプロンを
外す
⑩
汚染物の密封
⑪
又は
手指衛生
⑫
おむつ交換
終了後
⑬
交換後のおむつは
直ちに指定の
廃棄物容器に入れる
使用後のおむつ廃棄
⑭
又は
手指衛生

個人防護具を外す順番

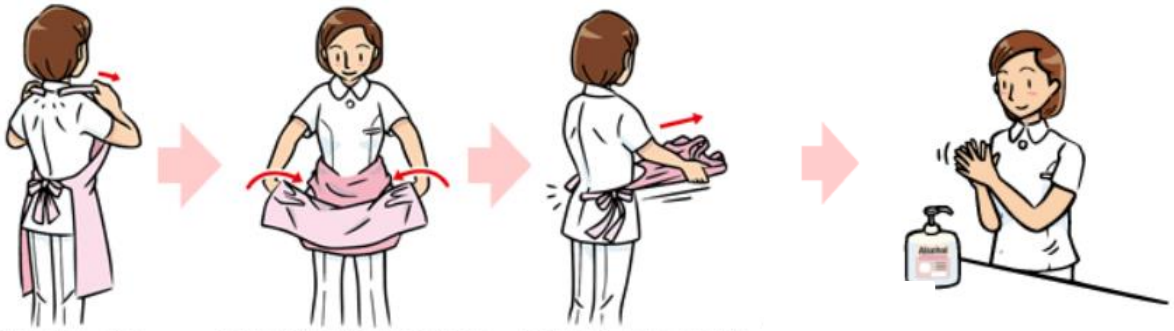

1 手袋
2 手指衛生
3 ゴーグル・フェイスシールド
※
4 ガウン・エプロン
※
5 マスク
6 手指衛生
※
汚染がある場合は
手指衛生を
追加しましょう

防護具の正しい外し方

手袋

片方の手袋の袖口をつかむ → 手袋を表裏逆になるように外す → 手袋を外した手を反対の手袋の袖口に差し込む → 手袋を表裏逆になるように外す → 使用済みの手袋を廃棄し、手指衛生を行う

エプロン



首ひもをちぎる → 汚染面が内側になるように腰の辺りで折りたたむ → 適当な大きさにまとめ、腰ひもをちぎって外し廃棄する → 手指衛生を実施する

マスク

ゴムひもを持って外す → マスクを廃棄し手指衛生を行う → 手指衛生を実施する

手袋着用時の注意事項

①着用前に手指衛生を実施する。
②同じ人のケアや処置でも、部位ごとに交換する。
③手袋の損傷が明らかな場合は速やかに交換する。
④再使用しない。
⑤使用目的が達成したら速やかに手袋を外す。
⑥手袋を外した後は、ただちに手指衛生を実施する。

取り扱い注意!!

・箱が水や汚物で汚れないように管理する
・使用直前に取り出す
・一度取り出した物は箱に戻さない

オムツ交換車の上は
清潔と不潔に分けて使用していますか？

オムツ交換車について

オムツ交換車は使用しないことが望ましい。

＜理由＞

①手指衛生が徹底できないおそれがある

②使用前後の物品が混在するおそれがある

＜オムツ交換車を使用する場合の注意点＞

①使用前の物品（オムツ・手袋・陰部洗浄ボトル等）と使用後の物品が混在しないように配置する。

②手指衛生が行いやすいように、手指消毒アルコールをオムツ交換車に配置する。

③オムツ交換終了後、オムツや使用後の防護具を速やかに廃棄しオムツ交換車を消毒薬で清拭する。

取り外したオムツを
床に置いていませんか？

汚れた手袋のまま
おしり拭き触ってませんか？

陰部洗浄ボトルは1人1本ですか？

陰部洗浄ボトルの使い回しはやめましょう。

＜理由＞

①ボトルを持つ手が汚れていて、ボトルを汚染している
　可能性が高い。

②洗浄時のしぶきが、ボトルに飛散している可能性が高い。

＜ボトル本数が少ない場合は･･･＞

･陰部洗浄の処置時間を変更して対応する

※陰部洗浄ボトルは洗浄しやすく、乾燥しやすい製品を
　選択することも重要です。

陰部洗浄ボトルの消毒・保管方法

次亜塩素酸ナトリウム
（0.01%・60分以上、0.1%・30分以上浸漬）

熱水消毒

＜浸漬消毒のポイント＞
・ボトルの汚れを洗い落としてから浸漬させる。
・器材の空気を抜き、全体を浸漬させる。
・落し蓋を使うと浮き上がりを防止できる。

＜保管方法＞
・消毒薬から出した後、濡れた状態が続くと細菌繁殖の原因になるため
　できるだけ速やかに乾燥させる。
・水が切れやすいように立てておく。
・乾燥機を利用する。
・シンク横などの水の跳ね返りがない場所に保管する。

汚染したシーツ等は
どの様に処理していますか？

次亜塩素酸ナトリウム

便や吐物などの汚染を水洗除去したのち、
0.02%(200ppm)次亜塩素酸ナトリウム液に
30分間浸漬処理し、洗濯し乾燥

熱水消毒

85℃の熱水で1分間以上の洗濯処理

＜注意点＞
・防護具を付けて取り扱う
・洗浄場所や一時保管の場所を固定する。
・洗浄場所の消毒・（ 0.02%(200ppm)清掃を行う。

感染防止対策

＊日頃からの細かな経過観察と情報提供

食欲、顔色、話し方、歩き方、排泄の状態･･･
いつもと違うかなと感じたら情報提供をしましょう。

＊統一した感染対策(看護師、介護士、清掃担当者など)

・手指衛生
・吐物処理セットの管理
・吐物処理方法
・オムツ交換の方法
・個人防護具の取り扱い
・有症状者への対応
・環境整備の方法　　など

食堂での食事

＊食事時間を一緒にしない。

＊テーブルを別にする。

＊居室で食事する。

入浴

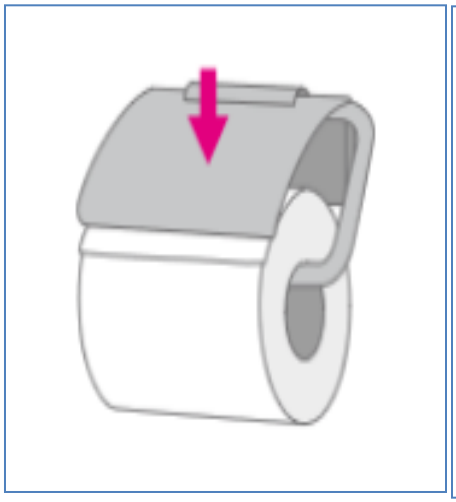
＊症状のある時の入浴は控える。（清拭のみとする）

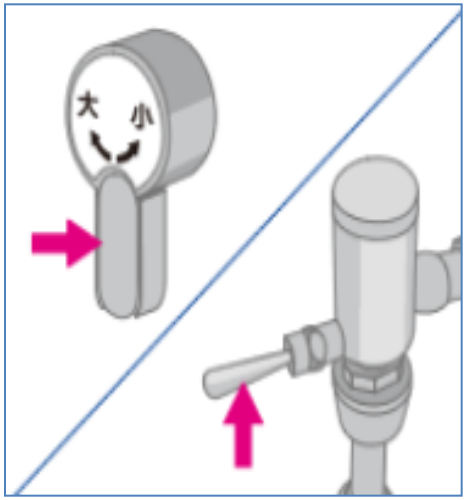
＊最後に入浴する。また、浴槽に入る前にお尻の周囲をよく洗う。

＊浴槽はアルカリ系洗剤で洗い流す。

＊施設担当者と状況評価を行い、対策を検討しましょう。

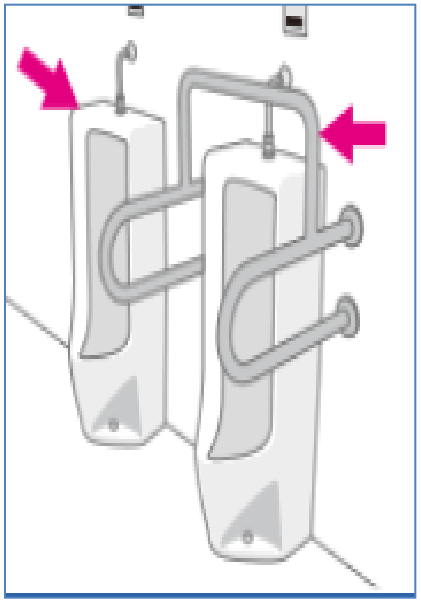
トイレ





＊定期清掃および使用後、必ず便座・周辺を消毒する。

＊有症状者の使用するトイレを限定する。

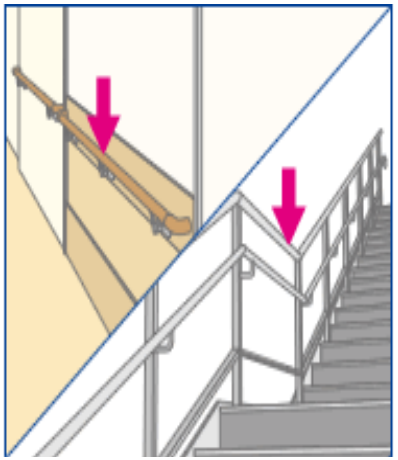


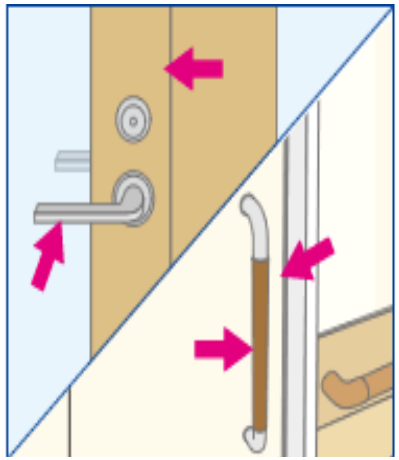
温水洗浄便座

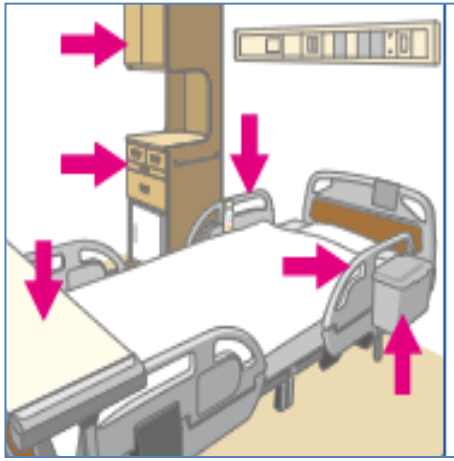
＊飛び散り注意

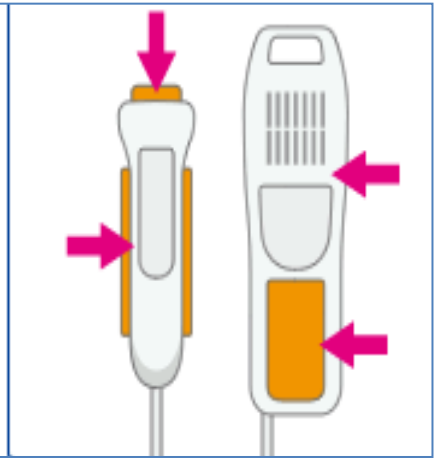
＊使用禁止も検討

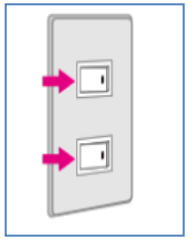
手でよく触る場所の環境整備
利用者エリア・職員エリアも！

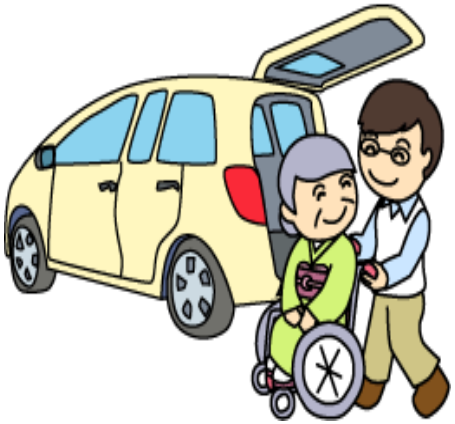












送迎車内

手洗い　の手順

1 まず手指を
流水でぬらす

2 石けん液を適量
手の平に取り出す

3 手の平と手の平を
すり合わせ
よく泡立てる

4 手の甲をもう片方の
手の平でもみ洗う
(両手)

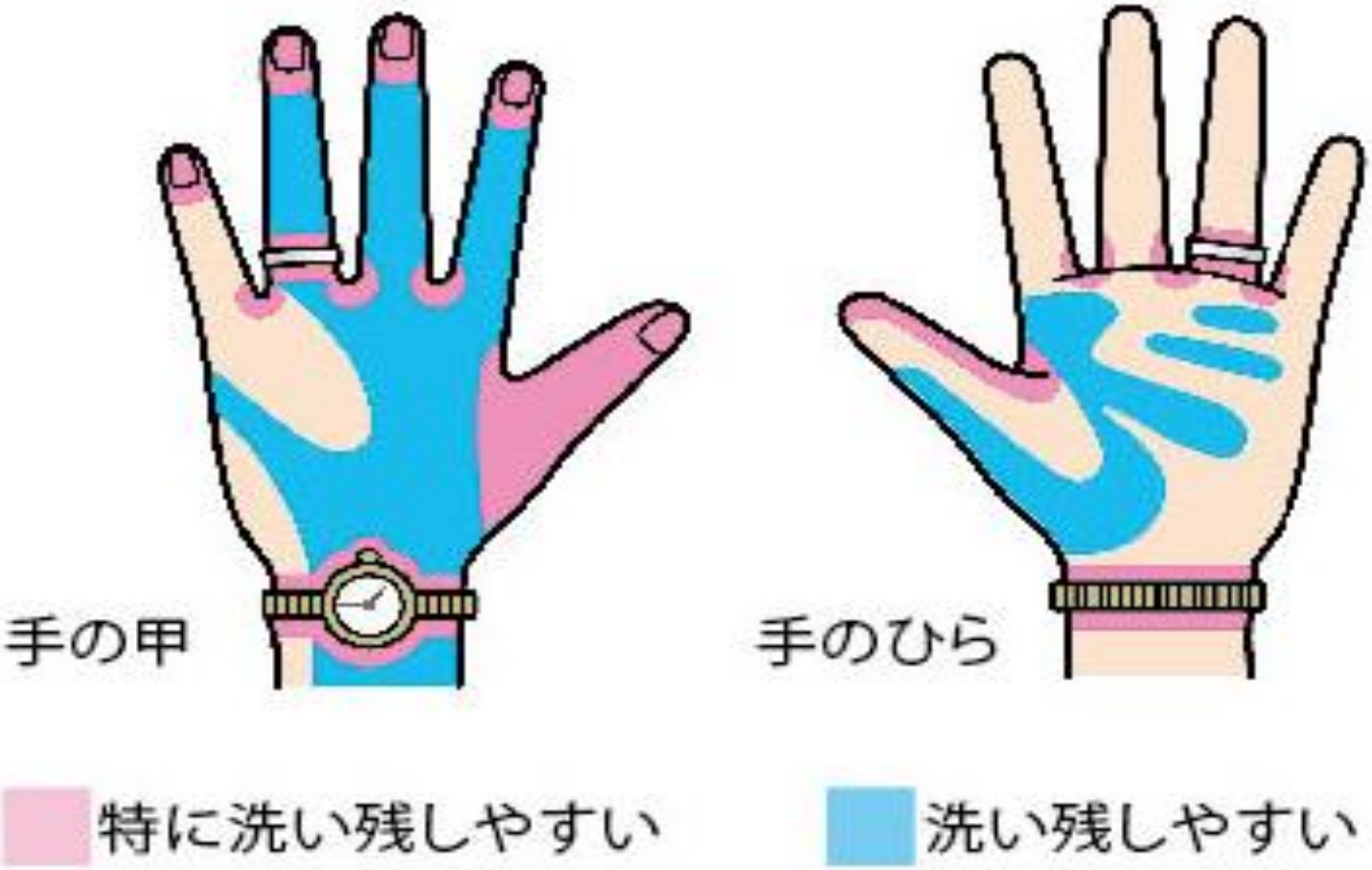
5 指を組んで両手の
指の間をもみ洗う

6 親指をもう片方の
手で包みもみ洗う
(両手)

7 指先をもう片方の
手の平でもみ洗う
(両手)

9 両手首まで
ていねいにもみ洗う

10 流水でよくすすぐ

11 ペーパータオルで
よく水気をふき取る

洗い残しの多い部位